

## 岩手県支部

### 岩手県内の「“市”<sup>いち</sup>」の開催事例」に関する調査研究

現在、岩手県内で開催されている各地の“市”の事例を調査研究したものである。

わが国における“市”の歴史は、一説によると古くは「日本書紀」の時代まで遡り、主に各地方における氏族共同体間での物々交換にその由来を発するといわれている。以後、時代の流れとともに特定の日に開催される定期市の性格を帯びるようになり、幾多の変遷に合わせてその開催様式をアレンジしながら、各地に受け継がれ今もなおその名残を多く残している。

現在、県内各地で開かれている“市”の多くは、地域や商店街の活性化を期待された目玉企画という位置づけで、その地域に眠る文化・歴史を背景とした産直市という形式で開催されており、地域で暮らす消費者や遠方から訪れる旅行者などにその利便性や賑わい感を提供している。

これらの“市”が目指す企図は、主にその地域における商業活性化を目的に集客促進を期待するものであるが、その大きな成功事例とも言える集客動員力が1万人を超える調査対象においてさえ、“市”を訪れる来街者が、主催する地域商業者の路面店にまで足が回らず、円滑な利潤の獲得にまで至っていない現状がある。

人口減少や高齢化が進む地方経済にとって、これらの“市”は、大きな潜在力を有した集客の誘引装置となり得るものであるが、魅力的な“市”を創出・維持継続することを第1の課題とするならば、次のステップとしては、“市”を訪れる消費者と出店者が作り出す賑わい感を、主催者である地域商業者の経営にいかに反映させることができるかが、課題となってくる。

#### <調査研究の対象とした10テーマ>

- ①「37年の歴史を持つ『材木町よ市』」 (盛岡市)
- ②「県立大学との共同開発『材木町よ市おんらいん』」 (盛岡市)
- ③「盛岡版“蚤の市”『奥州懐道アンチック市』」 (盛岡市)
- ④「“夕市”にも挑戦する『神子田朝市』」 (盛岡市)
- ⑤「盛岡駅前に民謡が流れる『北の民謡市場』」 (盛岡市)
- ⑥「荷台に商品がいっぱい！『元祖軽トラ市』」 (雫石町)
- ⑦「江刺日曜朝市」と「蔵まち水曜市」 (奥州市江刺区)
- ⑧「地元に定着した『せんまや夜市』」 (一関市千厩町)
- ⑨「歴史と伝統を引き継ぐ久慈『3と8の市』」 (久慈市)
- ⑩「新幹線二戸駅隣に展開する『なにゃーと夜市』」 (二戸市)

